

SPEECH STORAGE DEVICE

Publication number: JP7250167 (A)

Publication date: 1995-09-28

Inventor(s): MATSUSHITA MASAHISA

Applicant(s): NIPPON ELECTRIC ENG

Classification:

- **international:** **H04M3/50; H04M3/42; H04M3/50; H04M3/42;** (IPC1-7): H04M3/42; H04M3/50

- **European:**

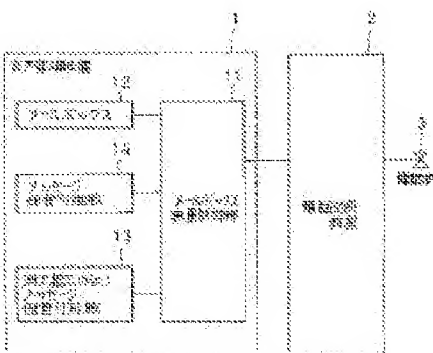
Application number: JP19940041526 19940311

Priority number(s): JP19940041526 19940311

Abstract of JP 7250167 (A)

PURPOSE:To record a new message even when the number of stored messages exceeds the prescribed value of the capacity of a mail box.

CONSTITUTION:When a telephone set 3 calls the speech storage device 1 through a telephone exchange 2, a mail box capacity control part 11 decides whether or not the number of messages whose erasure is not indicated among messages currently stored in the mail box 12 exceeds the contents of a holding part 13 for the storable number of messages whose erasure is not indicated. When deciding that the contents do not exceed, the mail box capacity control part 11 decides whether or not the number of messages stored in the mail box 12 at present exceeds the contents of the message storable quantity holding part 14. When deciding that the contents exceed, the mail box capacity control part 11 permanently erase temporarily erased messages, currently stored in the mail box 12, in order from messages whose storage histories are older.



Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-250167

(43) 公開日 平成7年(1995)9月26日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M	3/42	J		
	3/50	B		

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-41526

(22) 出願日 平成6年(1994)3月11日

(71) 出願人 000232047

日本電気エンジニアリング株式会社
東京都港区芝浦三丁目18番21号

(72) 発明者 松下 真久

東京都港区西新橋三丁目20番4号 日本電
気エンジニアリング株式会社内

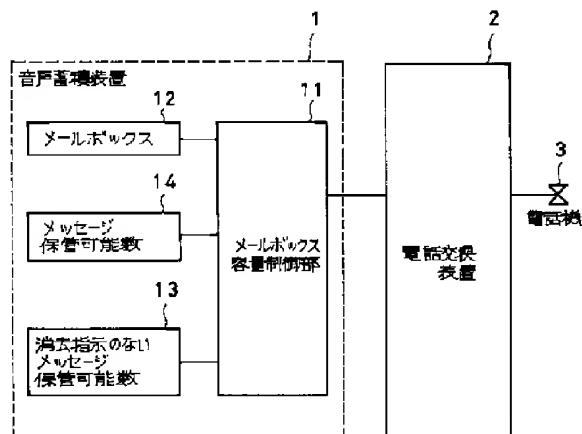
(74) 代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54) 【発明の名称】 音声蓄積装置

(57) 【要約】

【目的】 保管しているメッセージ数がメールボックス容量の規定値を越える場合でも新たなメッセージ録音を可能とする。

【構成】 電話機3から電話交換装置2を介して音声蓄積装置1に着信したとき、メールボックス容量制御部11はメールボックス12に現在保管されているメッセージの中で消去指示のないメッセージ数が消去指示のないメッセージ保管可能数保持部13の内容を越えないかどうかを判定する。メールボックス容量制御部11は越えないと判定すると、メールボックス12に現在保管されているメッセージ数がメッセージ保管可能数保持部14の内容を越えるかを判定する。メールボックス容量制御部11は越えると判定すると、メールボックス12に現在保管されているメッセージの中で仮消去メッセージを保管履歴の古いものから順に永久消去する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 外部からの消去指示入力時に対応するメッセージを仮消去メッセージとしてメールボックスに保管する音声蓄積装置であって、前記メールボックスへの新たなメッセージの蓄積時に前記メールボックスの保管可能数を越えるか否かを判定する判定手段と、前記判定手段で前記メールボックスの保管可能数を越えると判定されたときに前記仮消去メッセージを消去する消去手段とを有することを特徴とする音声蓄積装置。

【請求項2】 前記消去手段は、保管された仮消去メッセージが予め設定された所定数となるまで前記仮消去メッセージを保管履歴の古いものから順に消去するよう構成されたことを特徴とする請求項1記載の音声蓄積装置。

【請求項3】 外部からの消去指示入力時に対応するメッセージを仮消去メッセージとしてメールボックスに保管する音声蓄積装置であって、前記メールボックスへの新たなメッセージの蓄積時に前記メールボックスの保管可能数を越えるか否かを判定する判定手段と、前記判定手段で前記メールボックスの保管可能数を越えると判定されたときに当該新たなメッセージの保管によって消去しないメッセージの保管可能数を越えるか否かを判断する判断手段と、前記判断手段で前記消去しないメッセージの保管可能数を越えないと判断されたときに前記仮消去メッセージを消去する消去手段とを有することを特徴とする音声蓄積装置。

【請求項4】 前記消去手段は、前記仮消去メッセージを保管履歴の古いものから順に消去するよう構成されたことを特徴とする請求項3記載の音声蓄積装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は音声蓄積装置に関し、特に電話交換装置に接続され、利用者が蓄積されたメッセージの消去を指示しても仮消去メッセージとして当該メッセージを保管する音声蓄積装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種の音声蓄積装置においては、ホテルや旅館等で宿泊客が使用する電話交換装置に接続され、宿泊客宛てのメッセージを保管するメールボックスを備えている。このメールボックスの容量はメッセージの保管数でのみ管理するようになっている。

【0003】 また、上記の音声蓄積装置においては、宿泊客が自分宛てのメッセージの消去を指示した場合でも、運用者の都合上当該メッセージを一定期間保管する必要があり、宿泊客が消去を指示したメッセージを仮消去扱いとして装置内に保管するようになっている。

【0004】 そのため、メッセージを仮消去したか否かに関係なく、装置内に保管したメッセージ数がメールボックス容量の規定値を越えると新たなメッセージ録音を規制している。

【0005】 このメッセージ数がメールボックス容量を越えた場合の対処方法として、メールボックス容量を越えたときのメッセージを一時記憶しておき、その後に当該メッセージを他の加入者に割当てられているメールボックスに転送する方法や当該メッセージの送出者名及び時刻を記録しておく方法がある。

【0006】 メールボックス容量を越えたときのメッセージを他の加入者に割当てられているメールボックスに転送する方法については、特開平3-58655号公報に詳述されている。また、メールボックス容量を越えたときのメッセージの送出者名及び時刻を記録しておく方法については、特開平3-159351号公報に詳述されている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来の音声蓄積装置では、メールボックスの容量はメッセージの保管数でのみ管理しているため、保管しているメッセージ数がメールボックス容量の規定値を越えると、宿泊客が消去を指示しても新たなメッセージ録音を行えないという問題がある。

【0008】 また、音声蓄積装置がホテルや旅館等で宿泊客が使用する電話交換装置に接続される場合、容量を越えたメッセージを他の加入者に割当てられているメールボックスに転送する方法や容量を越えたときにメッセージの送出者名及び時刻を記録しておく方法を用いることは、接客や宿泊客のプライバシー侵害等の問題が生ずるので難しい。

【0009】 そこで、本発明の目的は上記の問題点を解消し、保管しているメッセージ数がメールボックス容量の規定値を越える場合でも新たなメッセージ録音を可能とすることができる音声蓄積装置を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】 本発明による音声蓄積装置は、外部からの消去指示入力時に対応するメッセージを仮消去メッセージとしてメールボックスに保管する音声蓄積装置であって、前記メールボックスへの新たなメッセージの蓄積時に前記メールボックスの保管可能数を越えるか否かを判定する判定手段と、前記判定手段で前記メールボックスの保管可能数を越えると判定されたときに前記仮消去メッセージを消去する消去手段とを備えている。

【0011】 本発明による他の音声蓄積装置は、外部からの消去指示入力時に対応するメッセージを仮消去メッセージとしてメールボックスに保管する音声蓄積装置であって、前記メールボックスへの新たなメッセージの蓄積時に前記メールボックスの保管可能数を越えるか否かを判定する判定手段と、前記判定手段で前記メールボックスの保管可能数を越えると判定されたときに当該新たなメッセージの保管によって消去しないメッセージの保

管可能数を越えるか否かを判断する判断手段と、前記判断手段で前記消去しないメッセージの保管可能数を越えないと判断されたときに前記仮消去メッセージを消去する消去手段とを備えている。

【0012】

【実施例】次に、本発明の一実施例について図面を参照して説明する。

【0013】図1は本発明の一実施例の構成を示すブロック図である。図において、音声蓄積装置1は電話交換装置2を介して電話機3に接続可能となっており、メールボックス容量制御部11とメールボックス12と消去指示のないメッセージ保管可能数保持部13とメッセージ保管可能数保持部14とから構成されている。

【0014】図2は図1のメールボックス容量制御部11の動作を示すフローチャートである。これら図1及び図2を用いて本発明の一実施例によるメールボックス容量の規制動作について説明する。

【0015】宿泊客宛てのメッセージをメールボックス12に録音するために、電話機3から電話交換装置2を介して音声蓄積装置1に着信すると、メールボックス容量制御部11は消去指示のないメッセージ保管可能数保持部13に保持された消去指示のないメッセージ保管可能数とメールボックス12に現在保管されているメッセージの中で消去指示のないメッセージ数とを比較する(図2ステップS1)。

【0016】新たに着信したメッセージを録音することによって消去指示のないメッセージ保管可能数を越える場合、メールボックス容量制御部11はこの電話機3からのメッセージ録音を従来例と同様にして規制する。

【0017】また、新たに着信したメッセージを録音しても消去指示のないメッセージ保管可能数を越えない場合、メールボックス容量制御部11はメッセージ保管可能数保持部14に保持されたメッセージ保管可能数とメールボックス12に現在保管されているメッセージ数とを比較する(図2ステップS2)。

【0018】新たに着信したメッセージを録音することによってメッセージ保管可能数を越える場合、メールボックス容量制御部11はメールボックス12に現在保管されているメッセージの中で、宿泊客が消去を指示することで仮消去扱いとしてメールボックス12に保管されている仮消去メッセージを保管履歴の古いものから順に永久消去する(図2ステップS3)。ここで、永久消去とは当該メッセージを音声蓄積装置1から抹消して録音領域を空ける消去を示している。

【0019】これによって、新たなメッセージ録音が可能となるので、メールボックス容量制御部11は電話機3からのメッセージ録音を許可するので、電話機3からのメッセージがメールボックス12に録音される(図2ステップS4)。

【0020】また、新たに着信したメッセージを録音す

ることによってメッセージ保管可能数を越えない場合にも、メールボックス容量制御部11は電話機3からのメッセージ録音を許可するので、電話機3からのメッセージがメールボックス12に録音される(図2ステップS4)。

【0021】尚、新たに着信したメッセージを録音することによってメッセージ保管可能数を越える場合に、仮消去扱いとしてメールボックス12に保管されている仮消去メッセージが予め設定された所定数となるまで仮消去メッセージを保管履歴の古いものから順に消去して録音領域を空けるようにしてもよい。この場合、当該所定数を保持する保持部と、この保持部の内容と仮消去メッセージの保管数とを比較する手段とが必要となる。

【0022】このように、メールボックス容量の規定値をメッセージ保管可能数と、メールボックス利用者から消去指示のないメッセージ保管可能数または仮消去メッセージの保管数とによって管理し、メッセージ録音前にメッセージ保管可能数を越える場合に仮消去メッセージを古いものから順に永久消去することによって、消去指示のないメッセージ保管可能数または仮消去メッセージの保管数に達するまで新たな録音を可能とすることができ

【0023】これによって、新たなメッセージと消去指示のないメッセージと最低規定値分の仮消去されたメッセージとを保管することができ、保管しているメッセージ数がメールボックス容量の規定値を越える場合でも新たなメッセージ録音を可能とすることができる。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、外部からの消去指示入力時に対応するメッセージを仮消去メッセージとしてメールボックスに保管する音声蓄積装置において、メールボックスへの新たなメッセージの蓄積時にメールボックスの保管可能数を越えると判定されたときに仮消去メッセージを消去することによって、保管しているメッセージ数がメールボックス容量の規定値を越える場合でも新たなメッセージ録音を可能とすることができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

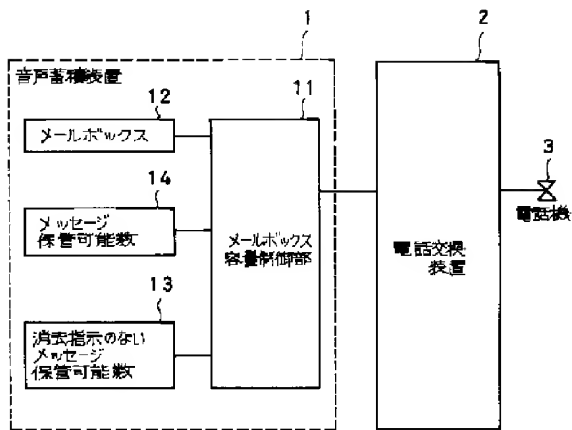
【図1】本発明の一実施例の構成を示すブロック図である。

【図2】図1のメールボックス容量制御部の動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 音声蓄積装置
- 2 電話交換装置
- 3 電話機
- 11 メールボックス容量制御部
- 12 メールボックス
- 13 消去指示のないメッセージ保管可能数保持部
- 14 メッセージ保管可能数保持部

【図1】



【図2】

